

いいようにルールが変更されることがあるのは、「契約」の特徴である。

現代社会において、スポーツを行なうことは、後付けの意味、意義からいっても、重要である。生活習慣病、高齢化社会に対して、スポーツの意味があることは確かであろう。自ら進んでスポーツを行なう集団は問題ない。スポーツ施設や機会の問題は、社会福祉の問題と伴って、改めて考える必要があろう。問題は、全く身体を動かすことに興味がない、意欲がない集団である。学校教育の問題と同様、そのような人々に如何に動機付けを行なうのか。現代社会において、スポーツの意義とは、この点にあると考えられる。

(平成16年12月4日実施)

第18話 トップアスリート たちの光と影

大森 一 伸 (スポーツ学研究室)

日本では戦後になって経済が豊かになり余暇が増大したことにより、大衆がスポーツを楽しむようになった。その楽しみ方はスポーツを「行う」のみならず、「観る」、「支える」、「消費する」など多岐に渡っており、このことを考えあわせると国民の大半がスポーツと関わっているといつてよいであろう。

国際舞台で活躍するトップアスリートの競技力も飛躍した。例えば、1908年の男子マラソン世界記録は2時間55分19秒であったのに対して、現在(2004年12月)の世界記録は2時間4分55秒(ベルリンマラソン; 2003年)であり、95年間で50分24秒も短縮された。男女の差を見てみると、初めて女子マラソンが公認された1979年の記録は2時間37分48秒であった。当時の男子の記録を100%とすると、女子の記録は約77%と算出される。これが現在(2004年12月)では約92%となり男子に急接近している。

このような、大衆へのスポーツの普及とトップアスリートの競技力の向上は、いずれも、経済が成長し医科学が発展したことに支えられている。

他方で、著しく普及発展したスポーツはお金儲けの手段として認知され、スポーツ産業が成長した。1980年に国際オリンピック委員会の会長となったサマランチは、スポーツを商業の対象とし、1984年のロサンゼルス五輪では、放送権利や商標登録などで巨額のお金を集めることに成功し「商業五輪」と称された。現在ではオリンピックや人気の高い国際大会の誘致には、巨額のお金を使用されている。それゆえ、トップアスリートの華やかな活躍はお金によって演出されており、勝者は富と名声を獲得することができる。

しかしながら反面では、富と名声を得るために意図的なドーピングを計画したり、人種差別、賭博、暴力、裏金献金といった倫理的に逸脱した行為が蔓延し深刻化している。

スポーツが生活の一部になったいま、このような問題を、トップアスリートとそれに関わる一部の者に限ったものであると看過するわけにはいかないであろう。我々には、スポーツについて真剣に議論し、スポーツの倫理的逸脱現象を「見張る」ことが求められている。そして、スポーツを健全に発展させていかなければならない。

(平成16年12月11日実施)